

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	11.14(日)	東葛城	発言者A	<p>校区の人口が少ないことに若干疑問はあり、統廃合については反対・賛成双方わかるという立場。</p> <p>ただ本日の資料はメリットしか書いておらず、信用できない。デメリットはないのかという点について聞きたい。</p>	<p>メリットは説明をさせていただいたとおりだが、課題と思われる点について、例えば適正化の取組により、通学が遠距離になる児童もいるように、通学距離の延伸がまず挙げられる。ただこの点については教育委員会として、子どもたちの安心安全を必ず守るという考えのもと、安心安全の確保が困難な地域においては、地域との協議の上、他地域との均衡にも配慮しながらスクールバスの導入等を考えていく。</p> <p>また、これまで小学校区で培われた地域コミュニティについても、小学校が閉校となれば影響が生じると考えている。ただし、学校の再編により、必ず地域コミュニティの組織もそれに合わせて再編するというのではなく、その後のあり方については市もサポートしながら、地域の方が主体的に決定していくものと考えている。</p> <p>小中一貫教育の課題について、小・中の授業時間が異なることによるチャイムの課題、小・中相互の乗り入れ指導がどこまで可能なのか等、様々な懸念点は想定される。その中で、先行事例等を十分に研究するとともに、教職員代表や学識経験者で構成される小中一貫教育推進会議において、利点と課題を審議しているところ。またご意見をいただければありがたい。</p>
2	11.14(日)	東葛城	発言者A	<p>大阪市内まで通勤し、東岸和田駅に夜遅くに帰ってくる。朝は6時台に出勤するが、普段から駅前の荒れている状況を見ている。教育委員会もその状況は把握していると思う。大規模な中学校が正しいと考えているのか、規模が大きくなることでそういった荒れた環境にならないのか、考えを聞きたい。</p>	<p>駅前の状況については把握している。その点については小中一貫教育とは別に、平日頃から地域の方々と一緒になって指導に取り組む必要があると考えている。</p> <p>どこの小学校も、どこの中学校もそのようにならないよう取り組んでいくことが最も大切だと考えている。</p> <p>なお、今回の取組については、現状案において中学校区を変更することは基本的に考えていない。</p>
3	11.14(日)	東葛城	発言者B	<p>自身も、子どもも当校区で育ち、良い教育環境だと思いながら安心して子どもを任せている。日頃地域の子どもたちも素直に挨拶をしてくれるような環境。</p> <p>一方、人数が少なすぎると教育環境が適正でなく、もっと人数がいた方がより良い教育環境だと説明であったが、果たして本当にそうなのか。客観的な根拠（エビデンス）、具体例や数字といったことが必要になるのではないのか。</p>	<p>小規模校におけるメリットについては、教育委員会としても認識している。しかしながら、一定の集団規模の中で学習を受けることがより望ましいと考えている。その根拠として、国の手引きというものがあり、策定にあたって学識経験者も交え、どの程度の学校規模が望ましいのかということを議論してきたが、その中でも小・中学校ともに12～18学級が望ましい学校規模だとしている。必ずその規模に合わせなくてはならないという規定はないが、子どもたちが集団活動の中で様々なことを学ぶ上で、その程度の学校規模が好ましいと示されている。</p> <p>また、国の手引きだけでなく、市においても平成30年度から1年間、学識経験者を交えて審議会を設け、どのくらいの学校規模が望ましいのかという点について検討いただき、国と同じく12～18学級が望ましいという答申をいただいたところ。</p> <p>更に、学識経験者だけでなく、学校の教職員や保護者、児童生徒を対象にアンケート調査を行い、その中でも12～18学級程度の学校規模が、学習環境も良く、クラス替えもでき、人間関係を築く上で望ましい規模であるという回答を多くいただいた。</p> <p>それらが、より良い教育環境を考える上での根拠となると考えている。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
4	11.14(日)	東葛城	発言者B	個人的な感覚として、身近に学校がなければ、この地域に住んでいなかったかもしれない。そのような中、学校がなくなった場合、地域が破綻してしまう危惧がある。日本経済最大の課題である少子化もより進むと思われる中、こういった取組が少子化を止めることになるのかという点も疑問。どのように考えているのか。	市全体の教育環境を整えることにより、子育て世代の方に岸和田市の教育の魅力を感じていただき、岸和田市を選んでいただくことをめざしていかなければならないと考えている。 市全体のまちづくりについては、市長部局において様々な対策、施策を進めているところだが、今後も引き続いて取り組んでいくことになると考えている。
5	11.14(日)	東葛城	発言者C	子どもが特認校制度を利用して東葛城小に通学している。 特認校のメリットの説明があったが、確かにその通りだと思う。その中で、なぜ特認校制度を導入したにも関わらず、僅か3年で集約するという話が出てくるのか理解できない。3年前に特認校制度導入を決めた時点で少子化もあり、再編の話も出ていたはず。	教育委員会としては、これからの社会で子どもたちがたくましく生きていく上で、一定の集団規模の確保とバランスの取れた学校配置が大切だと考えている。 東葛城小学校においては平成28年度に、今後数年のうちに複式学級が発生する見込みであった中、教育委員会としても、地域の子どもたちに、より多くの友だちを作ってもらうためにも、特認校制度を導入し、特色ある教育活動を実施していくことを決定した。 しかしながら、この間の児童数の状況を見ても、大幅な児童数増加には至っておらず、教育委員会がめざす、一定の集団規模には到達していない状況。 元来から一定の集団規模の確保が必要と考えていたところ、複式学級が迫る中で地域から特認校制度導入の要望を受けたこともあり、特認校としてのスタートを切った。 なお、その時点では適正規模及び適正配置に関する議論が始まったところであったため、当時地域の方々にその内容を説明できる段階ではなかった。
6	11.14(日)	東葛城	発言者C	今後中学校に進学する際に、葛城中学校と山滝中学校に分かれる中、また特認校制度を利用して他校区から来ている人もいると思うが、スクールバスはすべての地区を回るのか。自転車通学になるのか、今のように路線バスで通うことになるのかという説明が物足りない。	現在特認児童として東葛城小学校へ通学している児童については、基本的に保護者送迎等により通学している。 適正化の取組により、通学距離が現在より延びる児童生徒については、必要に応じてスクールバスの導入をしていきたいと考えているが、今後特認校制度を新たに設ける予定の（仮称）葛城小中一貫校、（仮称）山滝小中一貫校までの通学については、現在と同じように保護者の責任において通学していただくことを現状では考えている。
7	11.14(日)	東葛城	発言者C	東葛城小は学力面、環境面でとても良いという評判の中、校区外からも通学させたいという声も聞く。こういう学校を大切にしたいほうがいいのではないかと。	学校により学力の高低は存在するが、市内全体で見ると学校規模が小さいから高い、大きいから低いという結果はみられない。 一方、国が小学校における35人学級を導入したように、学校規模でなく、学級単位でいえば少人数の方が望ましいと考えている。 小規模校の場合、例えばある教職員が体調を崩した際に、中学校では教科担当が1人しかいない状況もある中、代替りの教職員がいないということも考えられる。様々なことが学力に関わってくる。 岸和田市の学力が厳しい状況にある中、小規模校大規模校に関わらず、よりよい学習環境を児童生徒に提供していきたいという想いで、小中一貫教育推進会議でも様々な討議を重ねていきたい。

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
8	11.14(日)	東葛城	発言者D	この地域説明会が設けられた意味について、「岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画の案を策定したので、皆さんどう思いますか」という会なのか、「このやり方で進めていくので、皆さん納得してください」という一方的な会なのか、姿勢を明確に聞かせてほしい。	<p>地域説明会の趣旨について、以前策定した「岸和田市立小・中学校の適正規模及び適正配置基本方針」に基づき、市民の方々からいただいた様々な案も鑑みながら「岸和田市立小・中学校適正規模及び適正配置実施計画（第1期）（案）」をお示したところ。</p> <p>この実施計画（案）は、「現在教育委員会ではこうした考え方のもと適正化の取組を進めていきたいと考えている」ということを示した叩き台として提示したものであり、これについて、地域の皆様からご意見をいただいた上で、成案化を図っていきたい。</p> <p>よって、この計画（案）は変更の予定がない確定したものであるというわけではない。一方、計画（案）は、子どもたちのより良い教育環境の整備と学校教育の充実を最優先に、地域コミュニティ等も鑑みて策定し、責任を持って提示している。</p> <p>一方的に地域の声を聴かずに進めていく姿勢ではなく、こうした地域説明会等を通じて様々なご意見を伺いながら、より良い計画にしていきたいと考えている。</p>
9	11.14(日)	東葛城	発言者D	<p>反対を押し切ってまで進めるものではないということも視野に入っているということでもよい。</p> <p>関連予算についても地域住民の税金が元となっている中、地域住民が納得できるものを作り上げてもらわなければ、賛成はできない。</p>	<p>反対を受けたからといって簡単に取り下げる、白紙にするというものでもない。教育委員会の考え方と、地域の方々のご意見を交換しながら、課題については改善に向けて全力を尽くしていきたい。</p> <p>どうしても互いの考え方がそぐわない、合意に至らない場合、計画（案）の成案化にあたっては様々な予算が伴うことから、市議会に双方の考え方を報告の上、最終的には市議会の議決として総合的に判断していただくこととなる。</p> <p>一部の地域の意見だけを聴くのではなく、市全体の公教育に責任を持つ教育委員会の立場として、総合的に対応していきたい。</p>
10	11.14(日)	東葛城	発言者E	<p>東葛城小学校がなくなることには反対。子どもから「お父さん、学校がなくなりたいわけになにかしたらいいことある？」と聞かれたので教えてほしい。</p> <p>この計画（案）が、成案化されて議会に提出されなくするためにはどうすればよいか。</p>	<p>お答えは難しいが、例えば学校が適正規模に近づくくらい、出生数が増えてくるといった状況が見えてくるのであれば、考え方も変わってくると思われる。</p> <p>ただ、現状の推計においては児童数の増加が見込めない中、一定の集団規模の確保に至ることは困難だとも考えている。</p>
11	11.14(日)	東葛城	発言者F	地域の過疎化といった問題と、教育は異なると話があったが、地域として人数を増やしたいが、市街化調整区域内である。特認校としても、すごく良い学校なので、もっと来てほしい。	市街化調整区域に関しては、市長部局との協議の中で、子どもが特認校に通学している方であれば、特例的に当校区に家を建てるのが可能となった旨を把握している。
12	11.14(日)	東葛城	発言者F	<p>地域の方が目をかけてくれたり、一人ひとりの個性を活かしあったり、人数が少なくても、皆が子どもらしく生き生きと学校生活を送っている東葛城小学校に通いたいと思った人たちが、なぜ転入できなかったのかを考えたときに、周りからも「行かせたいが、保護者での送迎が難しくして…」といった意見も結構あった。もう少しそこに予算をかけてほしい。</p>	特認校における送迎環境を含む予算拡充については、議会の判断を伴う事項でもあるが、予算的に厳しい状況にある。

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
13	11.14(日)	東葛城	発言者F	<p>この学校は存続し続けるべきだと、我が子を通わせている立場としても思う。東葛城小学校の子どもたちは、まさに「めざす子ども像」だと思う。</p> <p>小学校で人数が少なく、中学校に進学したときにびっくりして学校に行きにくくなった子どもも確かにいる。しかし、小学校のときに先生がこう言ってくれた、地域の方が励ましてくれた、といったことが卒業生の心の中にはいつもある。高校進学の際も、少し不便だな、と親に反抗するときも出てくるが、やはりこの地域・小学校が大好きだという想いがある。</p> <p>この地域の人々は優しい人が多いので、大きな声で「小学校をなくさないで」と言うことは少ないと思うが、子どもたちのことを考えると、やはりこの小学校が必要だと思う。</p> <p>今後、2つの谷の小中一貫校に分かれたとしたら、これから先の子どもたちは心細い気持ちで小学校に通うのではないかと思う。</p>	<p>地域の方が、これまで東葛城校区の子どもたちを温かく見守ってこられたことは、教育委員会としても認識している。</p> <p>「めざす子ども像」という点について、子どもたちが中学校、高校、大学、社会に出たときにも小規模集団の中で育っていく、活動していくということならば理解するが、この校区の子どもたちも今後、中規模・大規模の集団の中に出ていく。その中でたくましく活躍していくためには、小学生のうちから、学習面・学校活動面の両面において集団の中で、様々なことを経験し、多様な考えに触れることがより重要だと考えている。</p> <p>小規模校がダメだと言っているわけではなく、地域の方々からも多大なご協力をいただく中でもあるが、教育委員会としては、子どもたちの将来を考えたときに、適正化の取組を優先的に進めていく必要があると考えている。</p> <p>小規模だからこそ特認校制度を利用したいという保護者がいることも理解はしているが、教育委員会としては繰り返しになるものの、子どもたちがこれからの社会でたくましく生きていくことを考えると、少人数の環境で学校生活を送ることは好ましいことではないと考えている。</p>
14	11.14(日)	東葛城	発言者G	<p>過去、特認校検討に係る市民協議会の作業部会において、意見を聞くとはいうが、聞いてくれる部分と聞いてくれない部分があった。保護者を中心に何度も会議の場を持つなど、準備していたが、目に見える教育委員会からの協力はなかったと感じている。</p> <p>当地域は解決すべき課題が多くある。少ない人数から更に中学校が2つに分かれていることなど、いじめ問題にもつながることもあると思う。他にも細かいことを言い出すとキリがないくらいの課題がある。</p> <p>地域説明会など、今後どのように進めるかはわからないが、もっと意見を聞いてほしいという想いは常々持っているので、聞き入れてほしい。</p>	<p>1つの小学校から2つの中学校に分かれているという点について、東葛城小学校以外にもそのような校区が存在する。小学校で仲良くなった児童同士が中学校で分かれてしまうなど、教育委員会としても好ましいことではないと考えている。この点を解消することも、適正化の取組を機に実施していきたいと考えている。</p> <p>現状は中学校区を単位に、河合町、塔原町、相川町の児童は（仮称）葛城小中一貫校に、上白原町、神於町の児童は（仮称）山滝小中一貫校に通学する案を示しており、小学校のうちから、現状分かれている中学校に通っていただくという内容になっている。東葛城小学校のすべての児童が皆どちらかの学校に行くべき、という希望があれば、地域の方々と十分に協議していきたい。</p> <p>いじめ問題や子どもたちのトラブルについて、各校から報告を聞いており、様々な課題があることは把握している。</p> <p>1つの小学校から2つの中学校に分かれることは非常に大きな課題であり、例えば生徒指導上、A中学校とB中学校の校則が異なる場合、同じ小学校から進学して違う校則で過ごすという状況もある。</p> <p>現在も小学校と中学校で常に連携を取るが、同じ1つの学校で進む方が望ましいと考えている。</p>
15	11.14(日)	東葛城	発言者H	<p>ある保護者から「説明会の駐車場はありますか」と聞かれた。当地域の状況を理解していると思う。説明会の開催にあたって駐車場の確保が必要な地域になるが、そのあたりいかかがか。駐車場は確保していたか。</p> <p>地域のことなので、そのあたりしっかり協議の上、説明会実施にあたっての姿勢をきちんとしておくべきだった。</p>	<p>市内全域で、地域説明会の開催にあたっては「駐車場はありません」とアナウンスしている。地域ごとに、地域にある学校で開催するにあたって、車でお越しいただくことは避けていただくことをお願いしている。よって今回は駐車場の確保はしていなかった。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
16	11.14(日)	東葛城	発言者H	<p>特認校制度について、複式学級の回避が目的と書いていたが、先代の方からは修斉小学校との統廃合の話もあったと聞いているが、実際は複式学級と統廃合を回避、という理解でよいか。統廃合の話については当時地域から「No」と意思表示したということでしょうか。</p>	<p>過去の資料によると、校区への提案として、現状のまま変化に期待する、小規模特認校への移行、複式学級を受け入れる、隣接する小学校への通学という内容を示している。結果的に、地域として小規模特認校への移行を選択されたということで把握している。</p>
17	11.14(日)	東葛城	発言者H	<p>資料において、地域での児童数増加が見込みにくいということを記載しており、その下に「未来を生き抜く子どもたちの教育を最優先」と書いているが、特認校へ移行した時点で、岸和田市の子どもたちにとって東葛城小学校は財産であると考えているので、岸和田市の子どもたち全体のために、この学校を残してほしい。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>
18	11.14(日)	東葛城	発言者I	<p>この話はコロナ禍以前に出た話だと思うが、コロナ禍以降で考え方を考える必要があったのではないかなと思う。</p> <p>わざわざ集約するということは、わざわざ感染拡大させることにつながり、今後こうしたことは考えられる。子どもの安全を考えると、逆の方向性ではないか。児童生徒数が多い地域から分散していく方が時代に合っているのではないか。児童生徒数が多い学校では時間をずらしてカリキュラムを組んだりしていたと思うが、この学校ではそのようなことはなかったで助かった。</p> <p>時間をずらした登校など、保護者は大変だったと聞く。人数が少ないからこそ安全が確保されていたと考えるがどうか。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組と、コロナウイルス等による不測の緊急時において三密を避けることはまったく別のことであると考えている。</p> <p>感染症対策が重要なことは言うまでもないが、学校規模に関わらず、市内小中学校では国や府のガイドラインに基づき、しっかりと感染対策を取っているところ。これは学校生活を安全に行うために必ず必要なことなので、今後も必要な対策を行っていく。</p>